

\* 小学校での動物飼育活動活用(動物介在教育)の年間計画 \*

中川美穂子 2012

	4~5月	6~7月中旬	7月下旬~8月	9~10月	11月初め	11月中旬~1月	2~3月
動物の状態	新人になれていない	暑さと湿気に弱い・熱射病	休日の世話不足で弱りがち	食欲が増し太る	寒さに向かって、栄養をつける	寒さと正月休みのため、凍死・餓死が見られる	春休みの世話不足による餓死
配慮	優しく扱う、風囲いを4月半ばに除去	落葉樹の下など風通しの良い場所に	酷暑時期は、涼しいところに置く	行事の前にも、必ず世話をする	風囲い・木製かダンボール製巣箱・休日の世話確認	風囲い・餌水の充実・巣箱の完備・休日の世話	風囲い・餌の充実・巣箱の完備・休日と春休みの世話
生活科	動物との交流を活用して、学校への親しみ、友達関係の構築、生物への基礎的理解。弱いものへのいとおしみの感情、思いやり、思考・判断・表現力を培う 1年生の2学期に動物を2年生から受け取り、一年間飼育して、2年の2学期に下級生に渡すなど、1年以上の継続飼育を行う 但し、飼育舎の世話はできない年齢と考え、教室の内外で身近な簡単なほ乳類を飼うにとどめる 保護者の理解と支援を得る(保護者の教育参加を求める)						
ねらい	関心・親しみを誘う 友達と共有 動物を知る 作業を覚える	動物の気持ちを考える 友達と協力・工夫	暑さの危険性 命を守る工夫 責任(親子協力)	観察・発見・認識 友と協力 相手の気持ちを考える	飼育活動を振り返り みに伝えられるように	季節の変化に気付く 友達との協力 命を守る責任・ホームステイ	一年間大事に育てた活動を振り返り、下級生に引き継ぐ
活動	動物ふれあい教室 @動物の絵を描く 先生と一緒に世話を分担	当番の時以外も動物と接して親しむ 土日の親子当番	休日の世話・ホームステイ・親子当番 飼育日誌に家庭の言葉をもらう	絵や作文 興味により疑問や課題をみつけて調べる 劇などに、動物のことを組み入れ 次年度の飼育学年に伝えたいことを、調べまとめる作業		休みは家庭で、動物とともに楽しむ 休み中の様子を皆への報告として、絵日記を書く	動物への手紙や絵を描き発表 飼育の注意点を下級生に伝えた後1ヶ月間、下級生と一緒に世話して引き継ぐ
3~4年 総合・特別活動など	動物との交流を活用して、友達関係の深まり、協力、責任感、理科の生物への探求心、体の健康への知識、体を使った作業、表現活動など様々な効果につなげる 興味と体力の点から、飼育舎の動物(チャボやウサギを数羽ずつ飼育)の世話をを行うのに最適な年齢 保護者の理解と支援を得る《情操教育・命の教育に保護者の参加を求める》 掃除で容易にきれいになる飼育舎(コンクリート床)で、世話の楽な種類を飼い、笑い声の漏れる飼育をさせる 愛情を感じる動物の死に遭遇したときに、命の大事さに気付く						
ねらい	関心を持ち親しくなる ・気持や体、特徴を知る ・作業の意味と手順を知る	世話を通して、愛着、観察力が増す 作業を工夫 休み中の命を考える	責任感 友や家族との苦労と楽しさ 話題の共有 家庭との連絡が増す	より深い体験と言葉 飼育体験から感じたことを表現する 疑問点の探求	・11月には寒くなることを予想して、健康を心配する ・命を守る・寒さから弱い動物を守る行動がとれるように ・今までの飼育活動を振り返り、人に伝えられるようにまとめる ・命の大切さを実感するように		一年間の活動を振り返り、生命維持の作業の大変さと楽しさを下級生に伝える
活動	動物ふれあい教室@ (飼育導入授業) 人との比較を考える 体の形、心拍数の比較など 教師の指導のもと、1週間交替で飼育活動開始	土日の親子当番開始 飼育日誌をもとに飼育の課題や報告したいことを、話しあう 夏休みの当番について話しあう	夏休みのホームステイや親子当番の割り振りをする 休み中の観察日記に親の言葉も書いてもらう	疑問点を、班で調べる(ITや、獣医地域 獣医師や動物園などを活用して、体の構造、習性、病気、動物の気持ちを考える 世話に必要なこと、餌など各人の興味を調べあう 作文や劇活動の台本に飼育を組み入 病気や死亡時、獣医師から説明と慰めを得る	飼育舎に巣箱や風よけをつけるなど工夫 冬休みの対応について友達と分担を決める 学校は「命には休みがないことを子どもに伝えるために、保護者ががんばって」と発信する		引き継ぎ集会とその後の共同作業 今までの活動や研究をまとめ下級生に伝える(ex.動物の特徴と個性・世話の仕方・体の動き・人との比較・季節への対応)他動物クイズ

	4~5月	6~7月中旬	7月下旬~8月	9~10月	11月初め	11月中旬~1月	2~3月
5~6年	直接の飼育活動なしに、今までの動物飼育体験によって培った動物への愛情や感情、興味、探求心などで、より広い視点から動物への深い興味をもって調べることができる ex.動物の役割:・人を楽しませる、人の心の平安を保つ ・人と動物の絆(動物の人の心への影響) ・安楽死される動物達 ・自然と動物 ・絶滅危惧種とそれを未来に残す目的と努力 ・種の保存 ・動物園の役割 ・人のために働く動物 ・人の食糧や衣服になる動物。						
ねらい	今までの体験から、夏休みの研究主題を検討する	主体的な活動と協力者への感謝	まとめたものを人に伝える 人の考えを知り、自分を知る	より広い現実と考えを知る	達成感を得る 粘り強さを体験する 自分の研究を完成させる	6年間をふりかえる 下級生に学校を託し、新たな環境への心がまえをつくる	

	4～5月	6～7月中旬	7月下旬～8月	9～10月	11月初め	11月中旬～1月	2～3月
総合	個人や班の研究のテーマや課題を考え、動物園や獣医師、あるいは役所や介助犬の訓練施設などの支援で、自分の研究課題を決め、お互いに報告する 壁新聞、PC、ビデオ、童話や紙芝居などにまとめることなど、自由に考えさせる	自分なりに必要な協力を得て調査しまとめる	発表しあう 「主題との整合性、他との関連、より深い解釈など」について意見を出し合う	「野生動物と人間」「家畜と人間」「身体補助犬」など『人との関係』について関係者の話を	夏休みの研究等を、人に説明できるように整える	一年間、あるいは6年間を振り返って得たもの、楽しいこと、考えたことなどを、作文や絵等に表す 2学期の研究を、全校に発表する	
教師の配慮	各人目的をきめて粘り強く探求できるように、自由に考えられるようにする それまでの飼育体験を重要視する まとめと発表の形も、各自自由にPCや映像での発表、紙芝居、壁新聞、絵巻、作文など、例を示す 各人の企画にともなう協力者への配慮 子どもにも、協力する人たちの積極性や優しさを伝えておく			事前に、講師と「お互いの希望と方向性」を調整する (忌憚なく希望を講師に伝える)	下級生に発表する会を、日程を調整して設ける 地域の支援者などにも参加を求め、共に聞き、喜び合う機会にする 6年生は卒業式に壁に貼っておくなどして、達成感と自尊感情を持てるように		

\* 学校等で推奨される動物種 \*

品種種	性格、特徴	備考
(扱い方)	どこまでも静かにやさしく扱い、「怖い人ではない」「自分は大事にかわいがられている」と動物が感じるように世話をすると、信頼してくる ………信頼してくれば、人が近づいた時に、寄ってくる (人から逃げようなら、人の態度に改善の余地あり)	
チャボ	親に育てられているため、文化が伝わっている 社会的な頭脳を使う動物 かわいがられれば優しい反応をして人によくなる 10～15歳が寿命	屋外での飼育 糞尿もはき取ればよい 世話が簡単 江戸時代日本で創られた愛玩用の鶏 ももとは天然記念物
ウサギ	意地があり、かわいがらなると逃げ回るか反撃してくる 信頼すれば、触って欲しと、そばにきて、人の手も舐めてるようになる 6～10歳が寿命	糞尿が多く掃除の手を抜けない 固形資料で歯や腎臓を悪くするので、乾草や野菜を多く与えること 水ももちろん必要
モルモット	屋内のケージで飼う 衣装ケースで飼える 5歳位が寿命 人を信頼すると鳴いて餌をねだる 20度くらいが適温、なんらかの暖房や冷房を考慮	屋外ではなく室内飼育 人の健康のために、野生ネズミから病気がうつらないように飼う 糞尿が多く掃除の手を抜けないが、簡単なケージで飼える
ハムスター	比較的人になれない 3～4歳くらいが寿命 ★ジャンガリアンなどの小型種にアナフィラキシーを起こす人がいるので、ゴールデンハムスターなど大きい種類を飼う	落下事故で骨折するので、平面で飼う 冬の低温で疑似冬眠(仮死状態)になるので、夜もダンボールで囲い、暖かい工夫を
文鳥	やさしい性格で、オスは良い声でさえずる 小鳥は長生きで30年くらいが寿命といわれている 小さい子や中学、高校での飼育に向いている	屋外の飼育舎には向かない 冬の寒さ、春からの直射日光による熱中症にさせないためにも、校舎内で小鳥籠で少数ずつ飼う 冬の夜にはダンボールで保温して飼う ケージに敷いた新聞紙などを毎日とり変え、糞を取り去る
セキセイインコ(不适当)	うるさすぎるほどさえずる 一人の人にしか馴れないなど、比較的心が狭く、意地悪きみ肉食に向けた嘴で人を噛んで、離さないときがある 子どもの飼育活動には向かない 大きなインコ類は、猛獣と分類され、獣医師も皮手袋など防備して診療する種類	<b>* 小鳥は、1日の絶食・水で半数が死に、一日半の絶食・水で全滅する。</b>

\* 飼わない方が無難な動物種(ふれあえない・手間がかかりすぎる)\*

ヤギ	母ヤギを預かって出産させ、メス仔を残し、オス(気が荒く飼いきれない)や母親を返還する方式があるが、帰したものは食に供される(子どもへの嘘が生じるかも) 世話不足で死なせる事例が多い 体が大きいので死亡時や病気の治療など無料の処置には無理がある 角の処置に関わらず頭突き事故の危険 子どもが攻撃されて、怪我・骨折などの報告
ニワトリ	家畜・優しくすれば人に慣れるが、大型で、多くは気が荒い 子供が攻撃されると危険 孵卵器でうまれ、親は育てないので、雛ができてない それでチャボに比べて社会性や知性が無いため、扱いにくい
クジャクなど	雉やクジャクは野性が強く、オスは気が荒くメスや子どもを攻撃する また羽が強いのに閉じ込められている姿は楽しくない 狭い小屋で、綺麗な羽が傷みみすぼらしい姿になる 鳴声が大きく、近隣からの苦情がある(土地の人に勧められても、学校の相談相手の獣医師が反対していると、受け取りを断るように)
アヒル	家畜・水深45センチ以上の水場がないと足裏や関節が悪くなるが、水を非常に汚すため、常に水の循環、あるいは掃除の必要のない広い池以外では、毎日の世話に手間がかかりすぎる 糞が水性で広がるので、コンクリート床でも毎日水洗いが必要だが、土床の場合はきれいにできない 管理が大変すぎる種類 オスは意地悪く子どもを攻撃することもある
野生種	アライグマや狸など野生動物は成熟した時点で、殆ど人に馴れず、噛む可能性が高い 学校ではふれあえない動物は飼うべきではない 飼育は外来生物法・野生動物法などに抵触する
外来種	外国には人と共通の感染症を持つ動物があり、感染症予防法での輸入禁止種が多い 外来生物法もあるので、間違っても飼わないこと。